

第218回

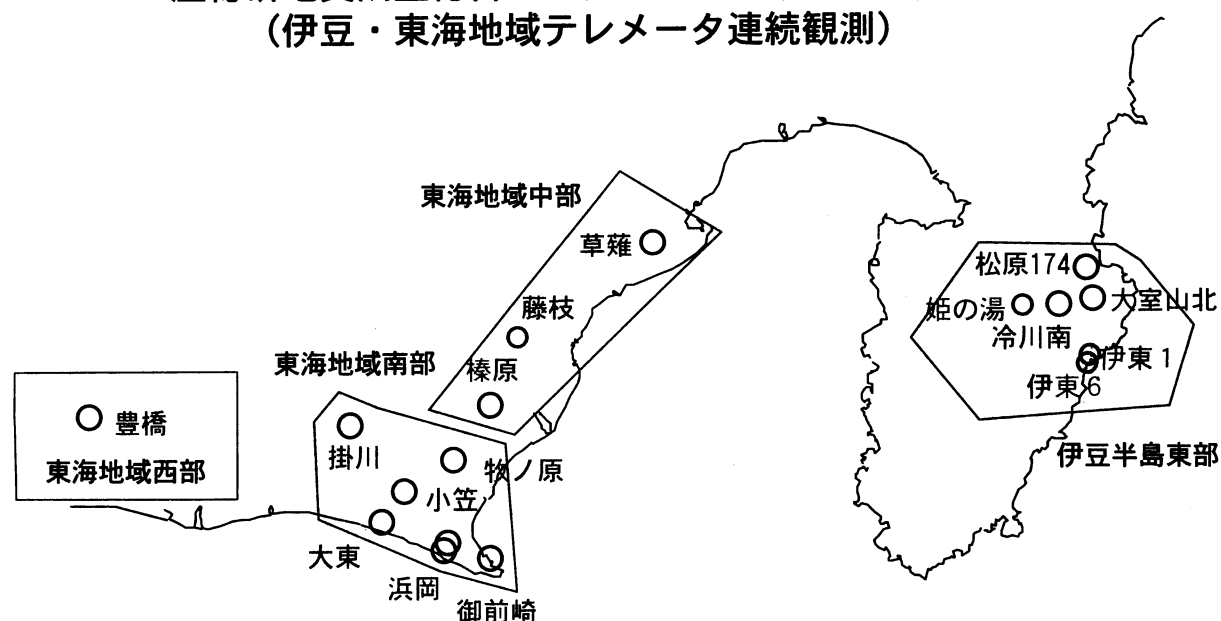
地震防災対策強化地域判定会

委員打合せ会

産業技術総合研究所

地質調査総合センター資料

産総研地質調査総合センター地下水観測井配置図
(伊豆・東海地域テレメータ連続観測)

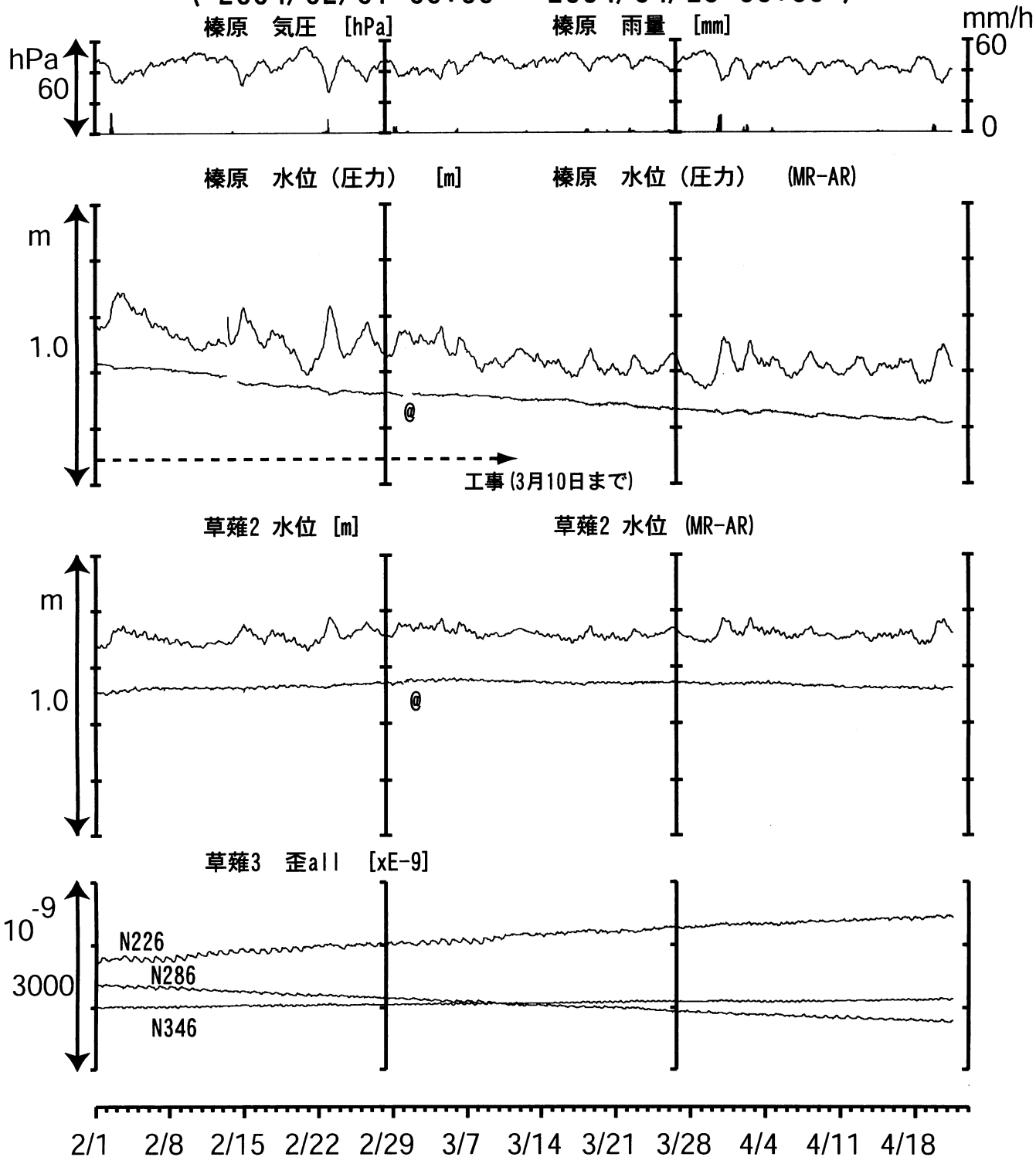


- 【資料目次】
1. 東海地域中部（榛原，草薙）地下水 3成分歪；中期
 - 1-b. 東海地域中部（草薙）3成分歪；中期
 2. 東海地域中部（榛原，草薙）地下水 3成分歪；長期
 - 2-b. 東海地域中部（草薙）主歪解析；長期
 3. 東海地域南部（大東，小笠，浜岡，御前崎）地下水；中期
 4. 東海地域南部（大東，小笠，浜岡，御前崎）地下水；長期
 - 4-b. 東海地域南部 浜岡地下水・沈下；長期
 - 4-c. 東海地域南部 掛川地下水・沈下；長期
 5. 東海地域西部（豊橋）地下水 3成分歪・傾斜；中期
 - 5-b. 東海地域西部（豊橋）3成分歪・傾斜；中期
 6. 東海地域西部（豊橋）地下水 3成分歪 傾斜；長期
 - 6-b. 東海地域西部（豊橋）豊橋1：主歪解析
 - 6-c. 東海地域西部（豊橋）豊橋1：主歪の時間変化
 7. 伊豆半島東部（松原174，大室山北，冷川南，伊東1，伊東6）地下水；中期
 8. 伊豆半島東部（松原174，大室山北，冷川南，伊東1，伊東6）地下水；長期
 9. 伊豆東海地域（伊東6，姫の湯，藤枝）ラドン；中期
 10. 伊豆東海地域（伊東6，姫の湯，藤枝）ラドン；長期

平成16年3月26日

東海地域中部（榛原・草薙）中期（時間値）

（ 2004/02/01 00:00 - 2004/04/23 00:00 ）



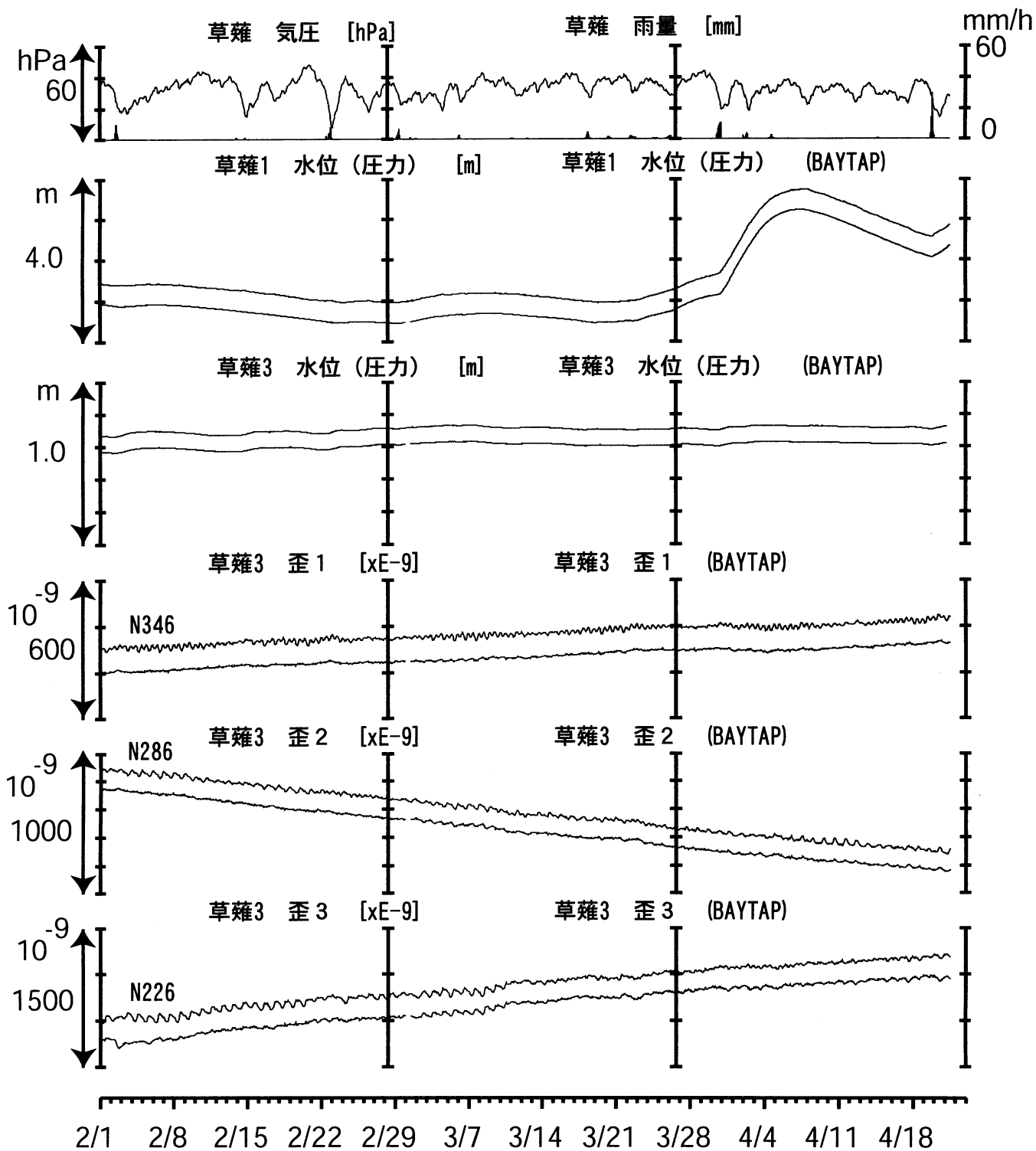
コメント：\$;保守,

@;月初めの補正値のギャップは、
解析プログラムの見かけ上のものである。
榛原の長期的な水位変化、および、
短期的な変化は空港工事に伴う
土砂の除去および盛土作業による。



東海地域中部（草薙・歪）中期（時間値）

（ 2004/02/01 00:00 - 2004/04/23 00:00 ）

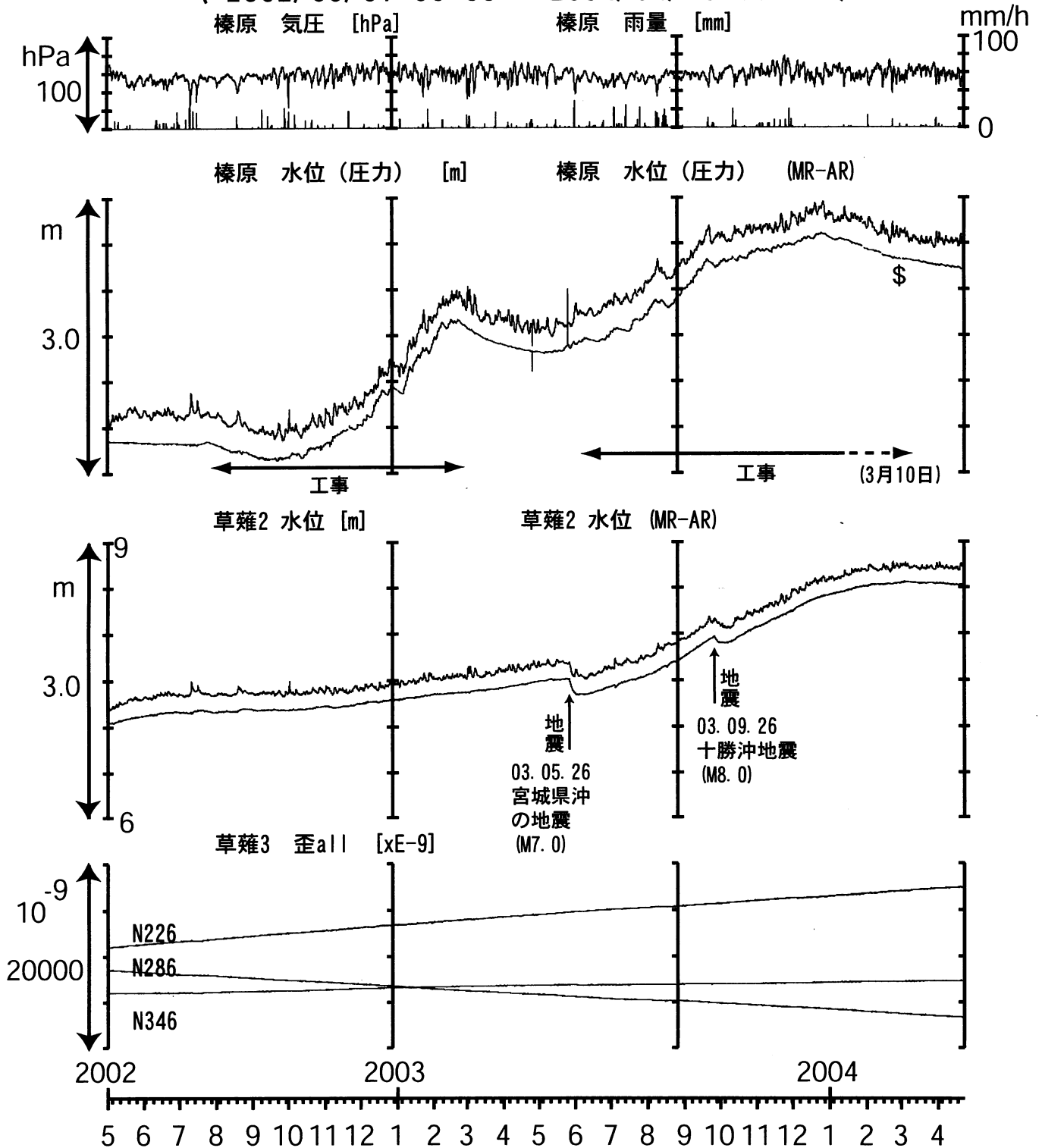


コメント：なし.

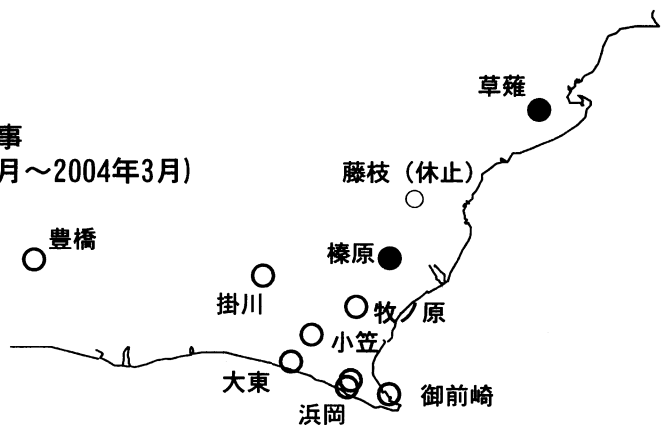


東海地域中部（榛原・草薙）長期（時間値）

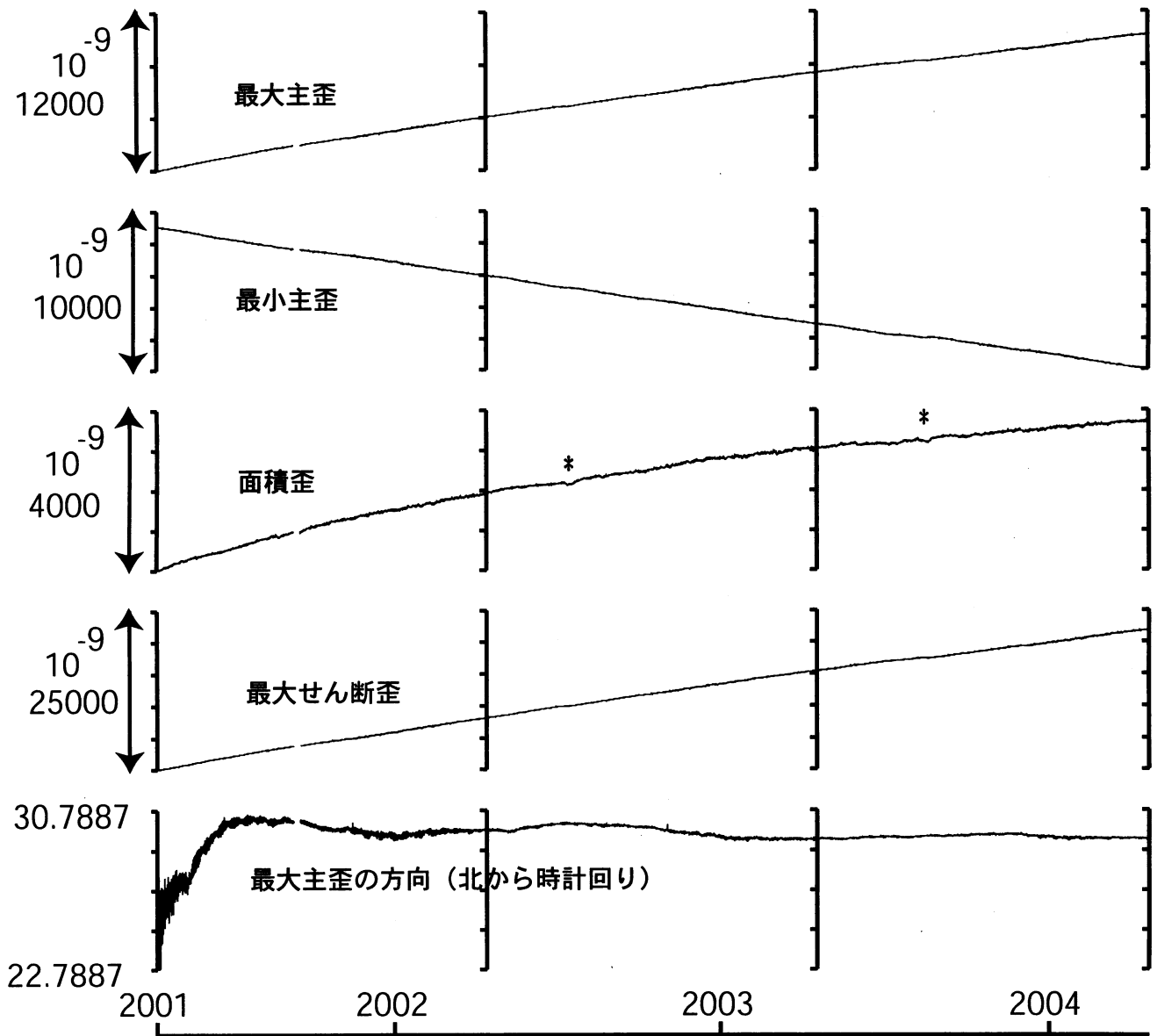
（ 2002/05/01 00:00 - 2004/04/23 00:00 ）



コメント：S;保守,
2002年7月以降の榛原の水位上昇・低下は,
静岡空港建設工事による盛土・土砂除去工事
(工事期間2002年7月～2003年2月, 2003年5月～2004年3月)
の影響による。
各工事期間終了後は, 水位は徐々に
低下している。

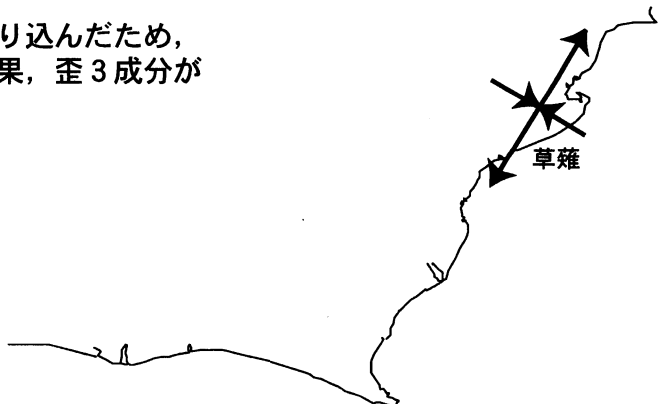


草薙長期：主歪解析 (2001/04/10 00:00 - 2004/04/21 14:00)



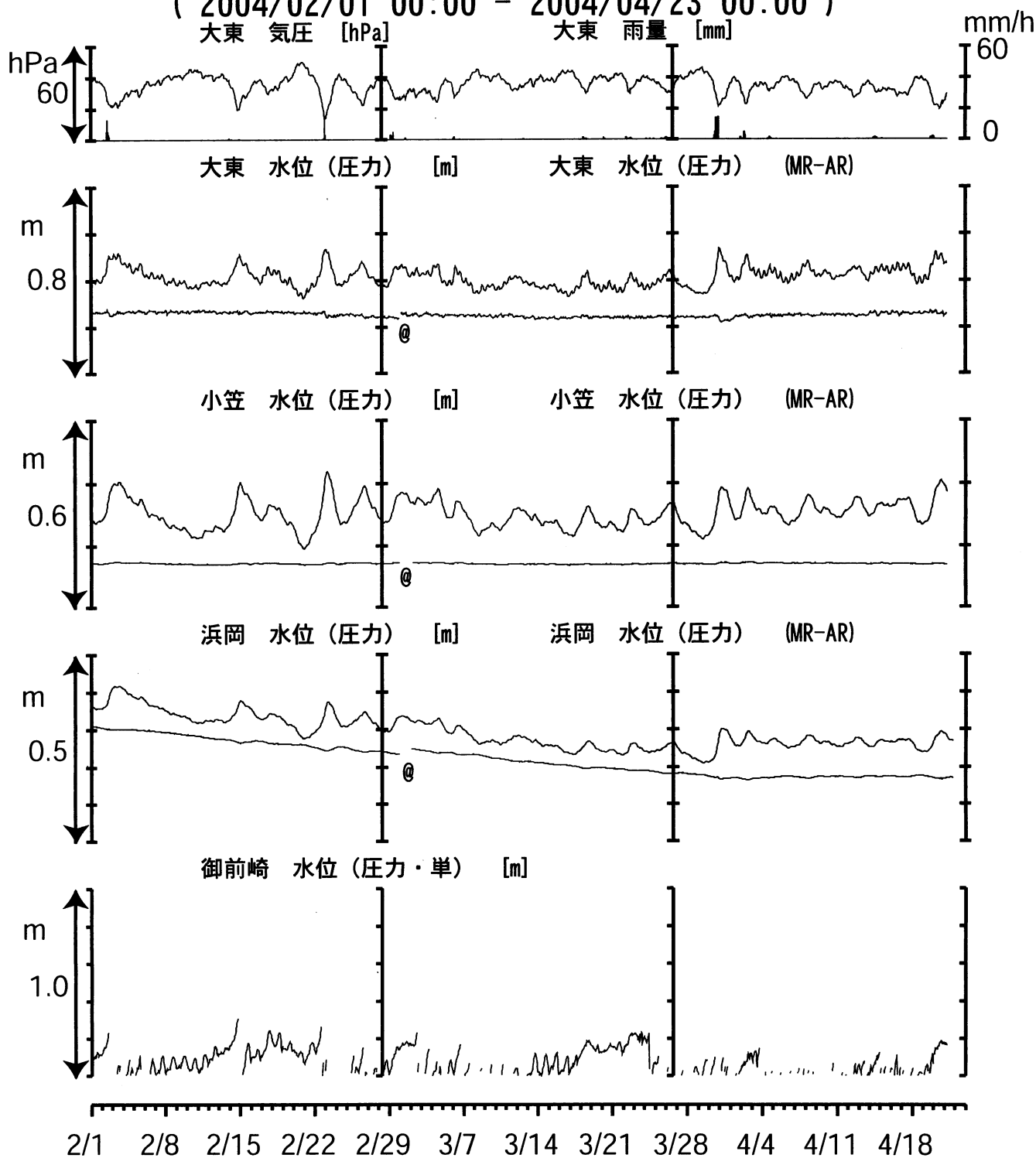
コメント：主歪解析の起点は2001年4月5日

* 草薙1（浅井戸）からあふれた水が入り込んだため、
草薙3の水位が大幅に上昇した。その結果、歪 3 成分が
縮んだための変化。



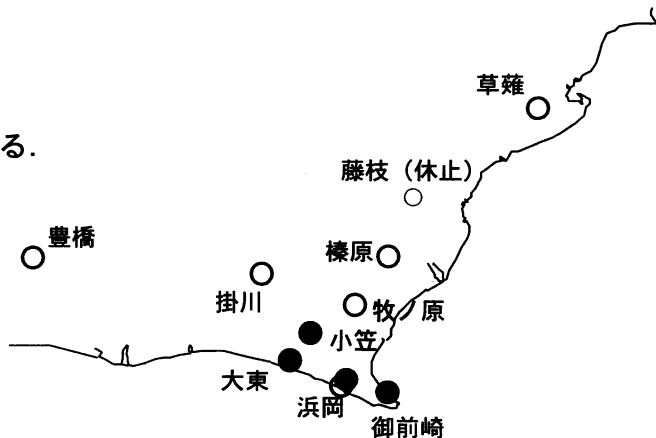
東海地域南部 地下水観測結果 中期 (時間値)

(2004/02/01 00:00 - 2004/04/23 00:00)



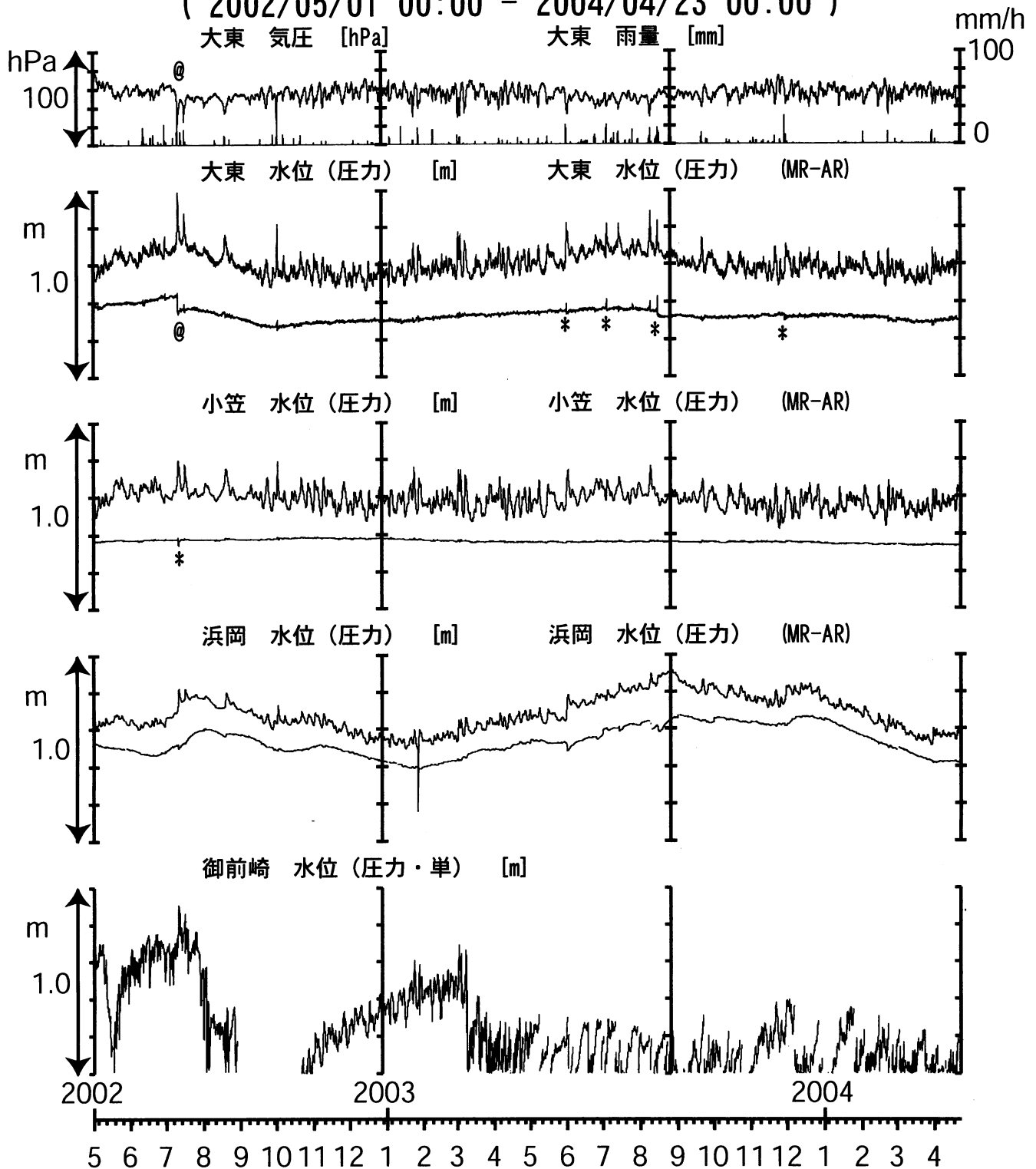
コメント:

@: 月初めの補正値のギャップは、解析プログラムの見かけ上のものである。
御前崎の水位異常は、配管からの圧力漏れによるもので、現在は、実質的に欠測状態にある。根本的な修理が必要で、現在準備中である。



東海地域南部 地下水観測結果 長期（時間値）

（ 2002/05/01 00:00 - 2004/04/23 00:00 ）



コメント：

*; 雨量補正不十分.

@; 気圧計レンジ変更による見かけ上の変化

2002年5月初めからの御前崎の水位異常は、

配管からの圧力漏れによるもので

現在は、実質的に欠測状態にある。

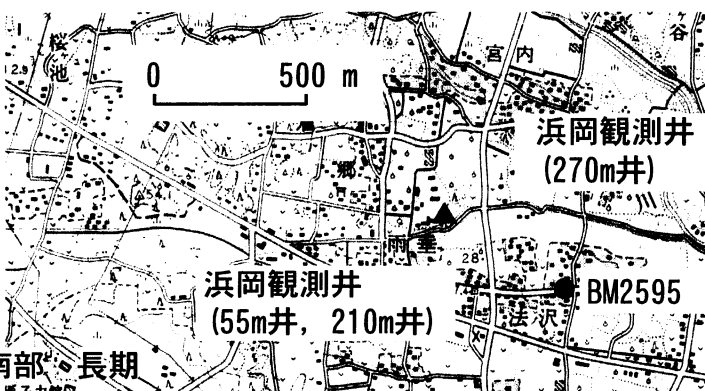
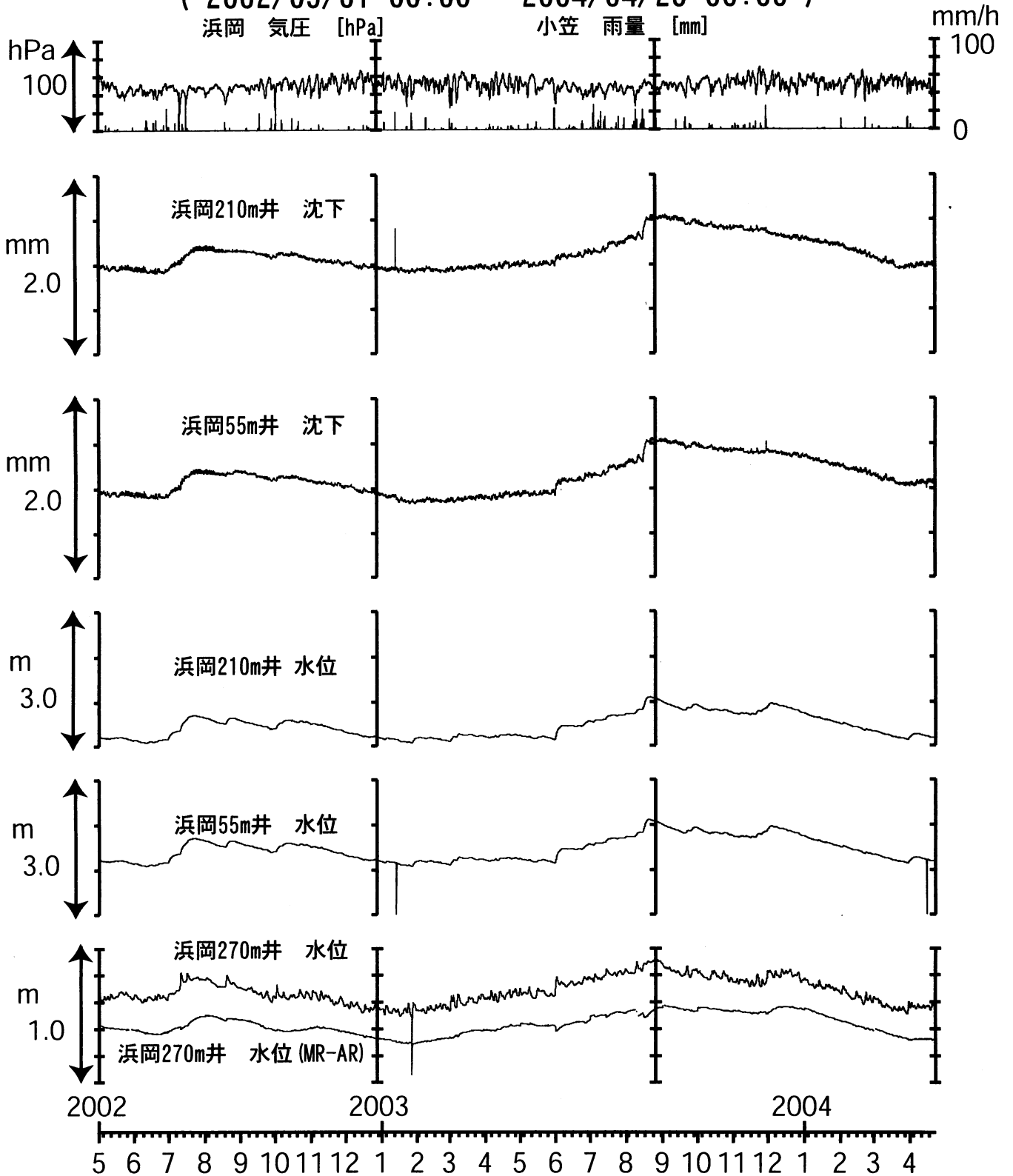
根本的な修理が必要で、

現在準備中である。



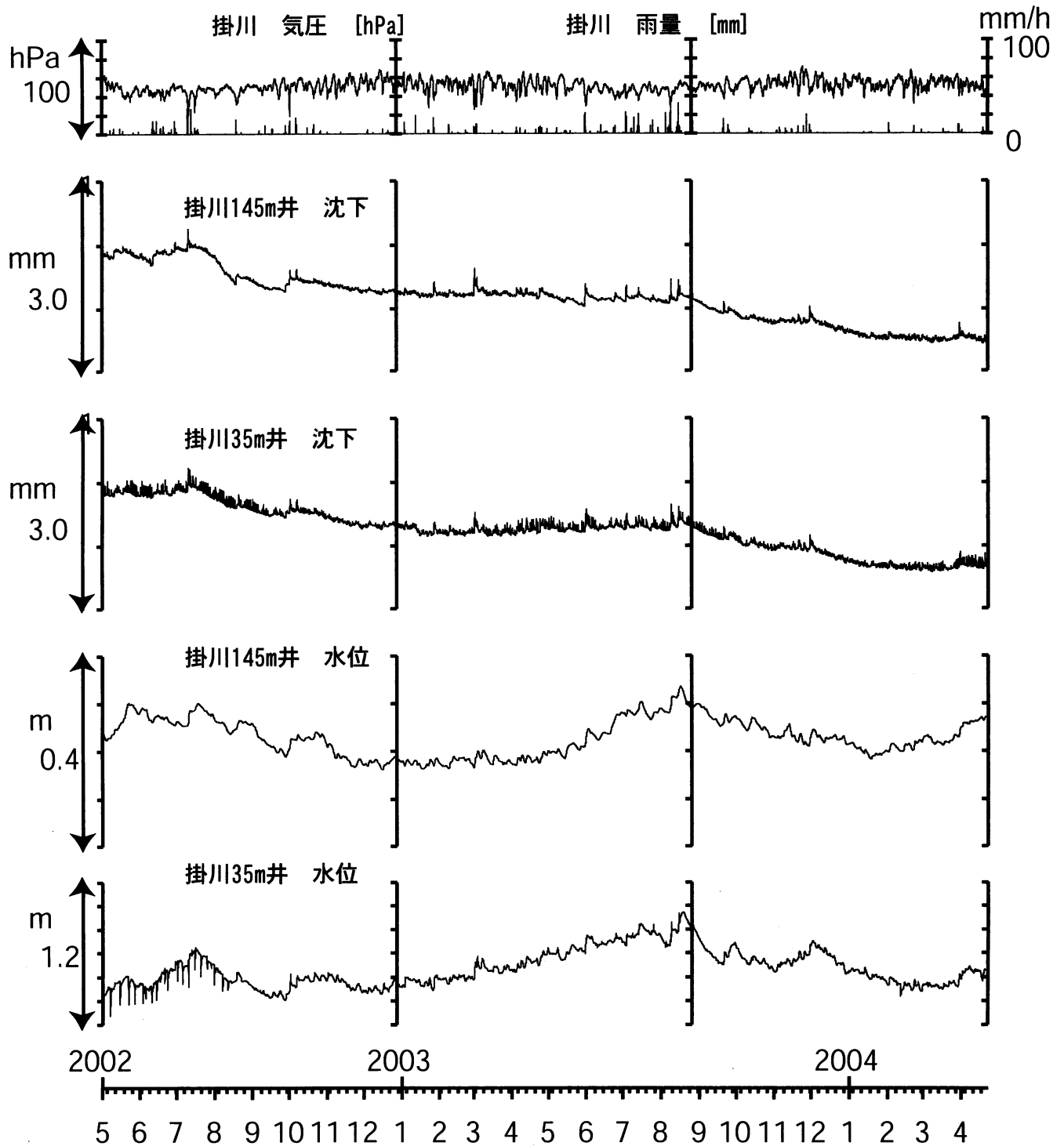
浜岡沈下・水位（時間値）

(2002/05/01 00:00 - 2004/04/23 00:00)



掛川沈下・水位（時間値）

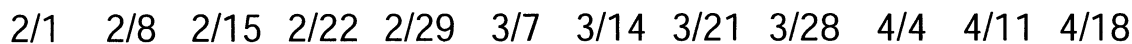
（ 2002/05/01 00:00 - 2004/04/23 00:00 ）



0 500 m



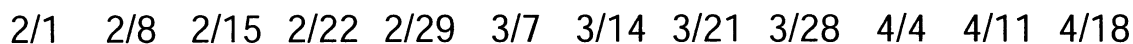
豊橋 雨量 [mm]



2002年6月末から観測点から西に約200M離れた
場所でトンネル工事が継続中である。



(2004/02/01 00:00 - 2004/04/23 00:00)

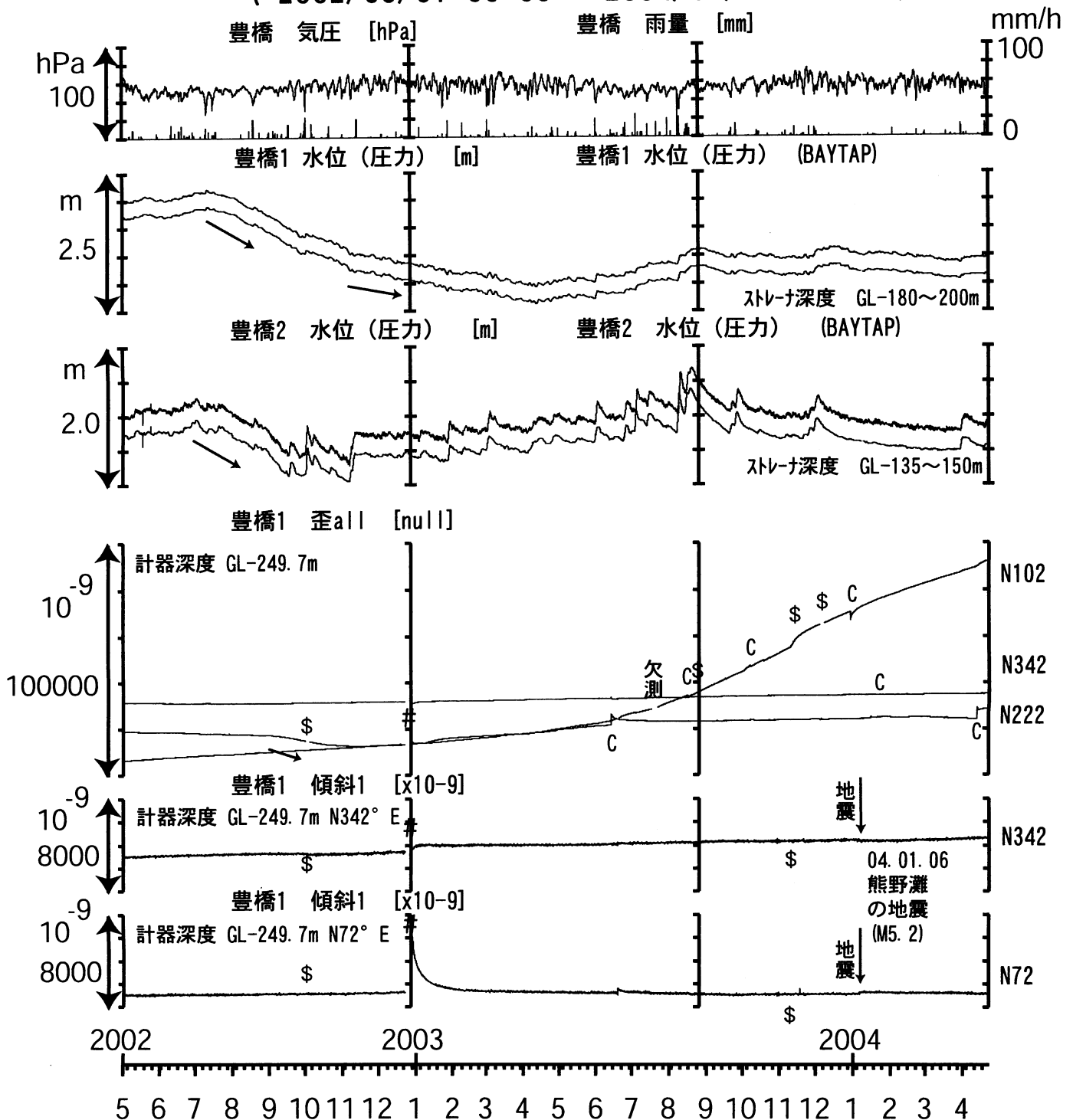


コメント：? ;原因不明. \$;保守

C: トンネル工事が原因と考えられるN102方向の急激な伸びで歪計近傍で微小破壊が生じることによる変化と推定できるもの(主歪解析結果と逆センスのステップ状変化にみえるもの)。
2002年6月末から観測点から西に約200M離れた場所
豊橋
でトンネル工事が継続中である。



東海地域西部（豊橋）長期（時間値） （2002/05/01 00:00 - 2004/04/23 00:00）



コメント：#；充電器故障によるバッテリー消耗。
\$；保守。？；原因不明。

C：トンネル工事が原因と考えられるN102方向の急激な伸びで
歪計近傍で微小破壊が生じることによる変化と推定できるもの
（主歪解析結果と逆センスのステップ状変化にみえるもの）。

2002年7月～2003年4月に豊橋1の水位が低下した。

2002年7月～11月に豊橋2の水位が低下した。

歪2（N222）が2002年9月初めから減少していたが、
2002年11月後半から上昇している。

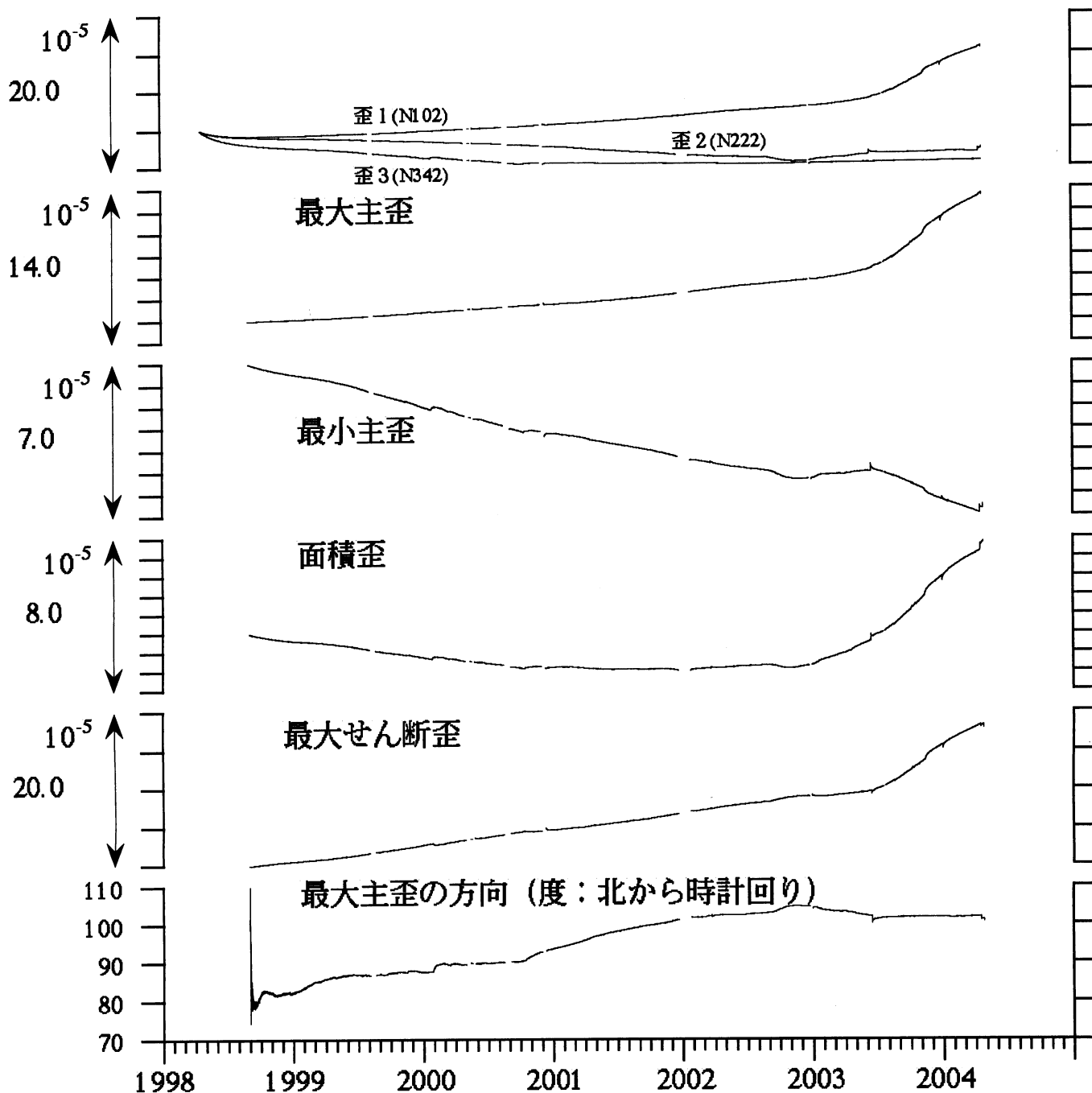
歪1（N102）の上昇が、2003年4月頃から加速している。

以上、2002年6月末からのトンネル工事の影響と思われる。



豊橋1:主歪解析

(1998/09/01 00:00 - 2004/04/22 05:00)

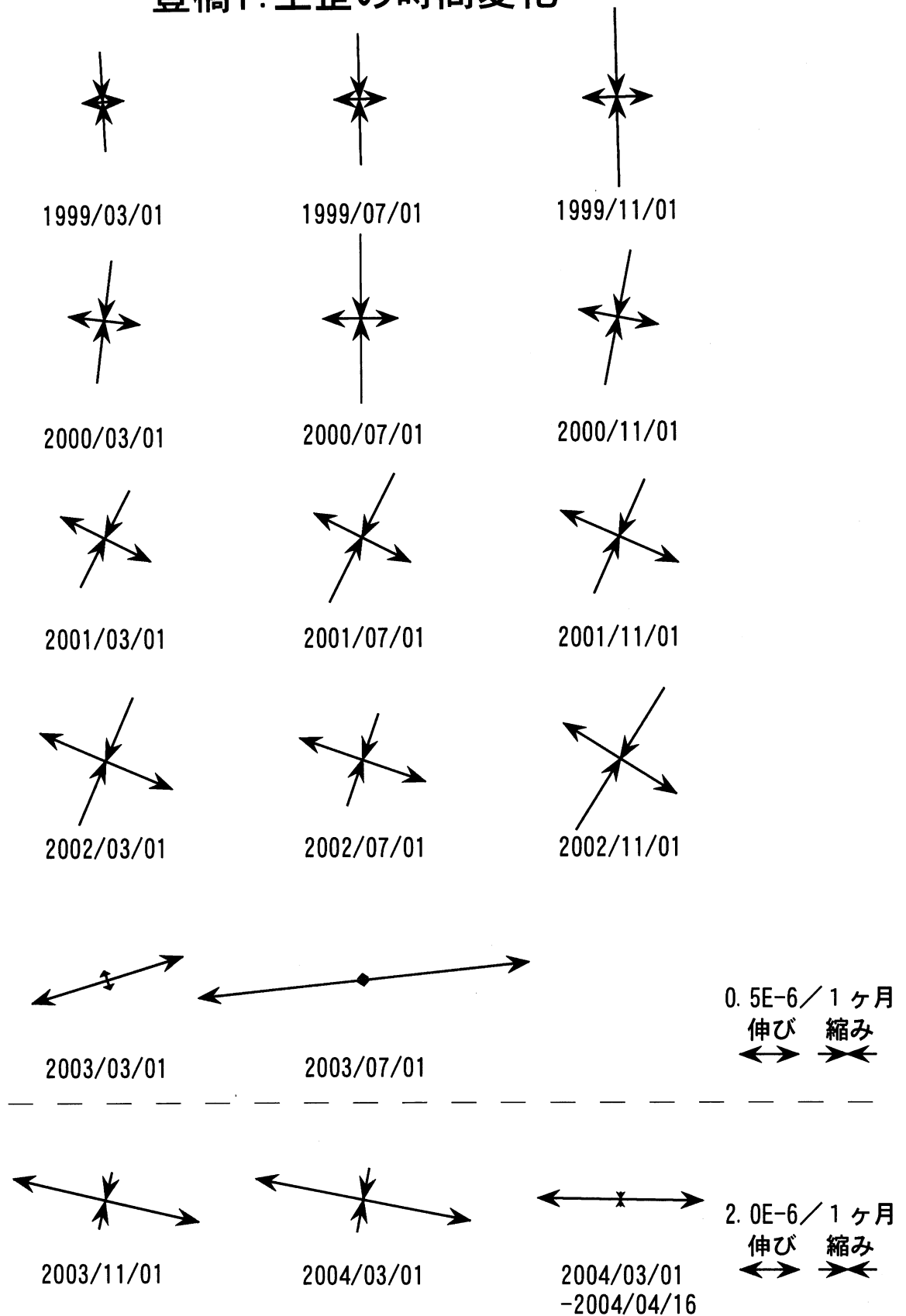


コメント：主歪解析の起点は1998年9月1日

主に、2002年9月初めからの歪 2 (N222) の変化と
2003年4月頃からの歪 1 (N102) の上昇加速とにより、
解析結果に影響が出ている。



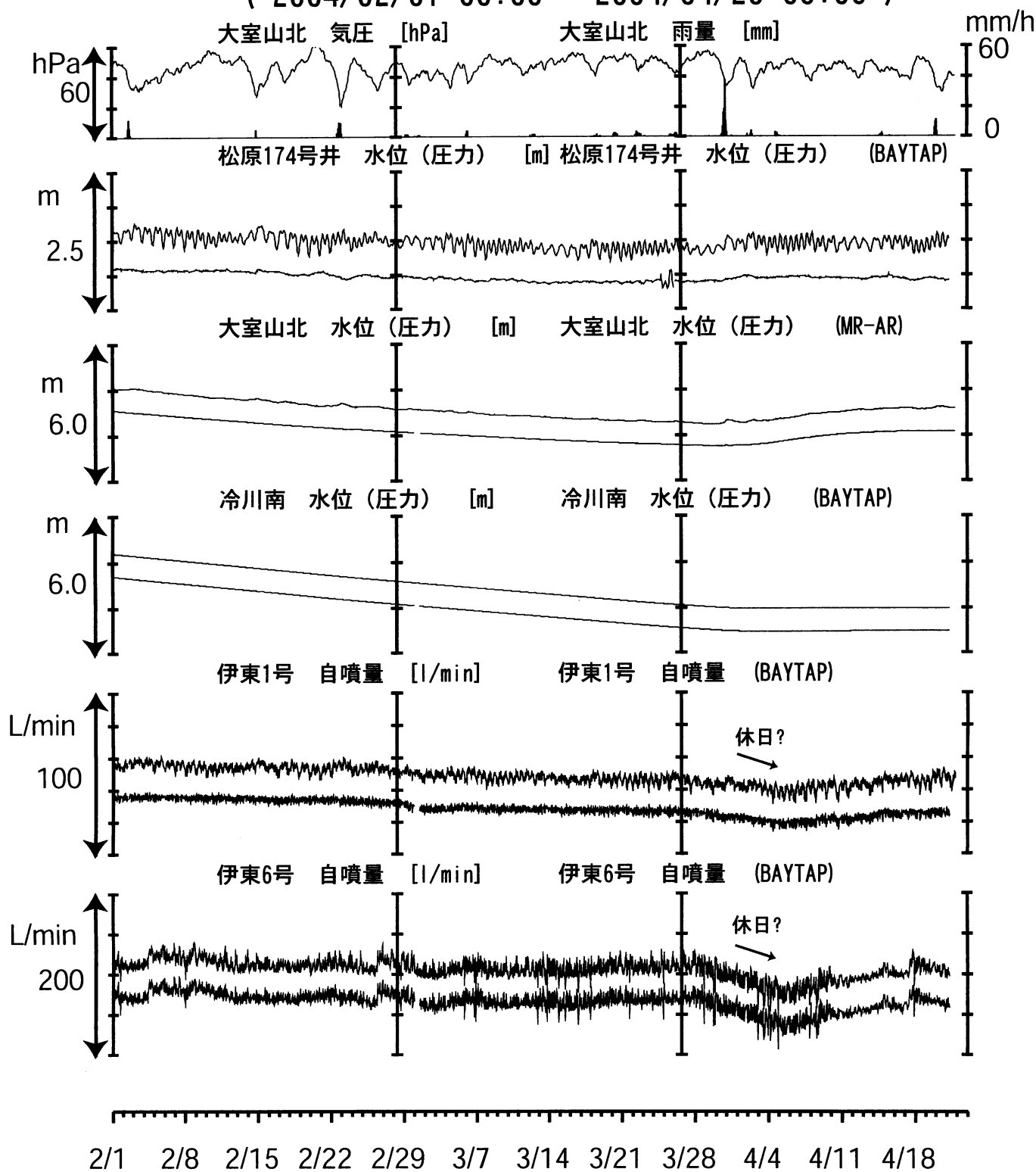
豊橋1:主歪の時間変化



コメント：最新の分を除いて、各々4ヶ月前を起点として主歪解析を行った。
主に、2002年9月初めからの歪2 (N222) の変化と
2003年4月頃からの歪1 (N102) の上昇加速とにより、
解析結果に影響が出ている。

伊豆半島東部 地下水位・自噴量 中期 (時間値)

(2004/02/01 00:00 - 2004/04/23 00:00)



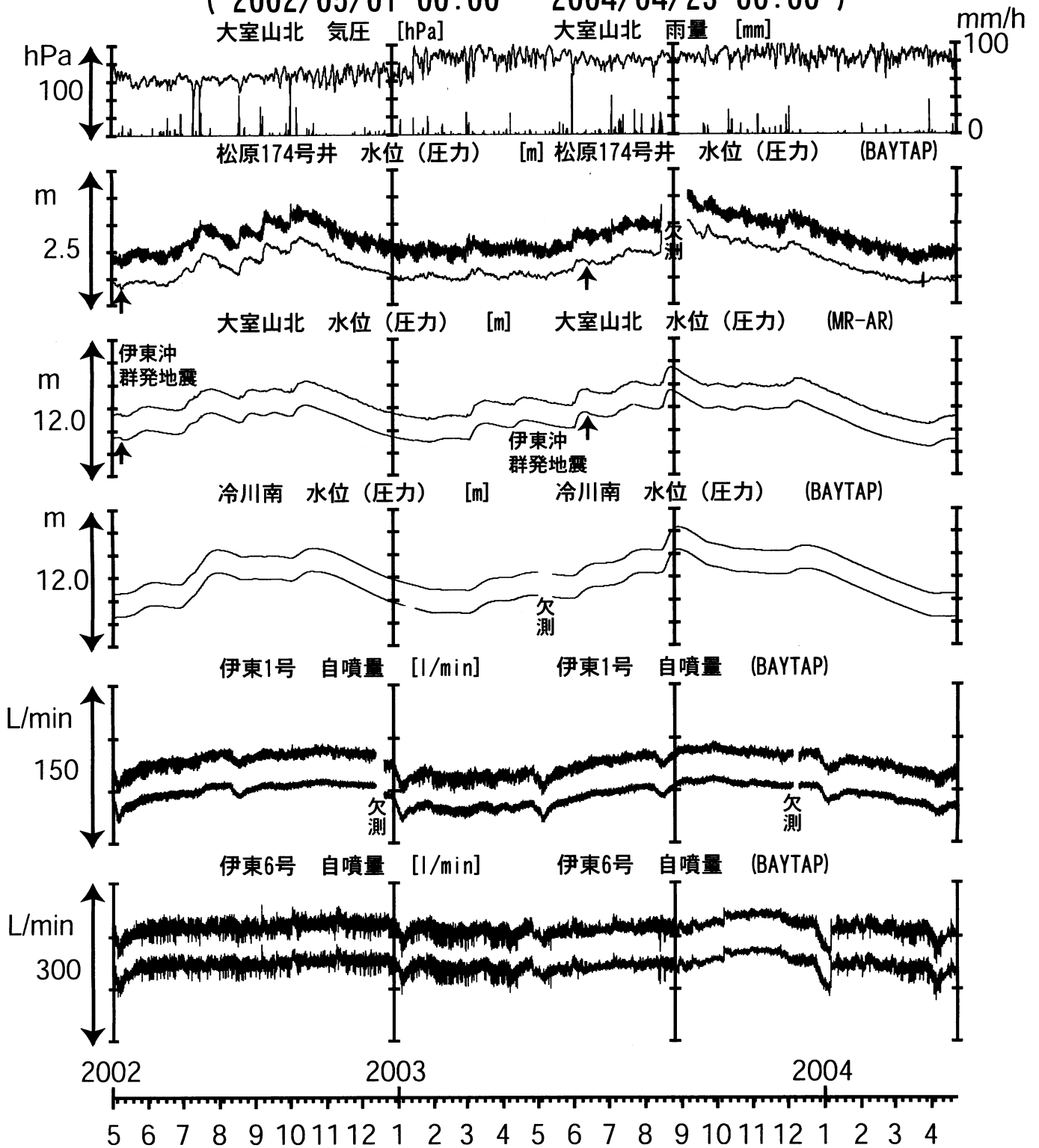
コメント:

松原174号井は静岡県による観測。
 伊東6のばらつきは配管の問題に
 よると思われる。
 伊東1・6は、休日・年末年始に周囲の
 温泉使用量が増加するため、
 自噴量が減少する。



伊豆半島東部 地下水位・自噴量 中期 (時間値)

(2002/05/01 00:00 - 2004/04/23 00:00)



コメント：松原174号井は静岡県による観測。

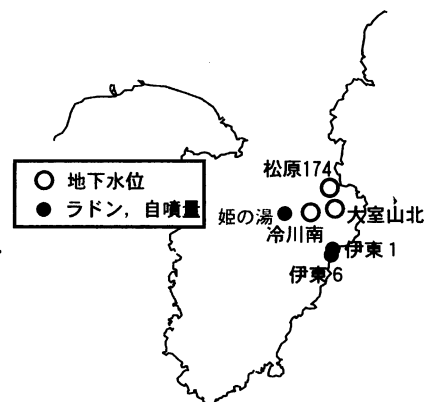
松原水位は、8月中旬の大雨により、水位が上昇して井戸口から溢れたため、欠測となっている。

伊東1・6は、休日・年末年始に周囲の温泉使用量が増加するため、自噴量が減少する。

伊東6のばらつきは配管の問題によると思われる。

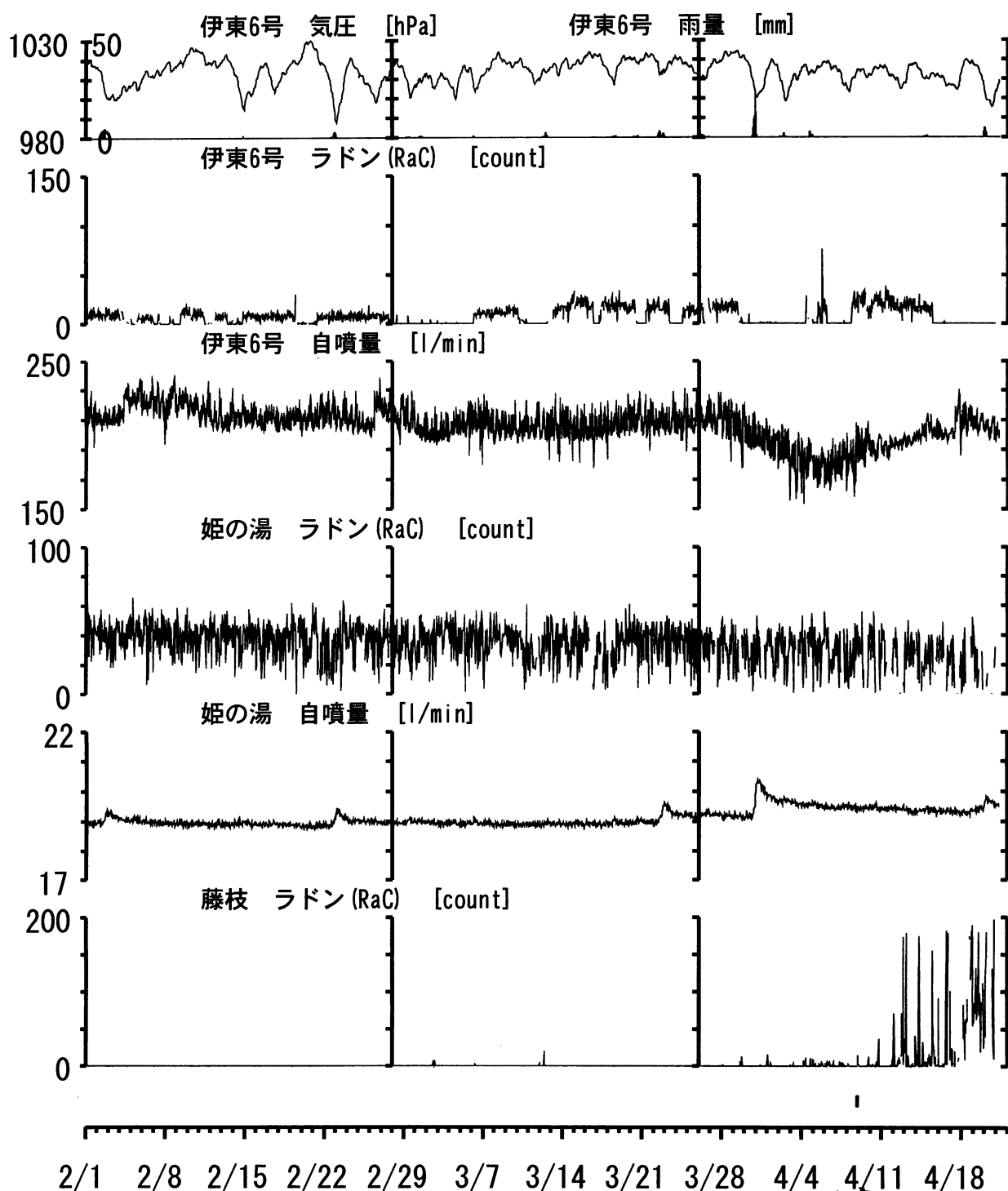
伊東1自噴量の2002年12月中旬における欠測は、停電による機器不具合のためである。

機器再設定後、自噴量の絶対値が小さくなっているが、見かけ上のものである可能性が高い。

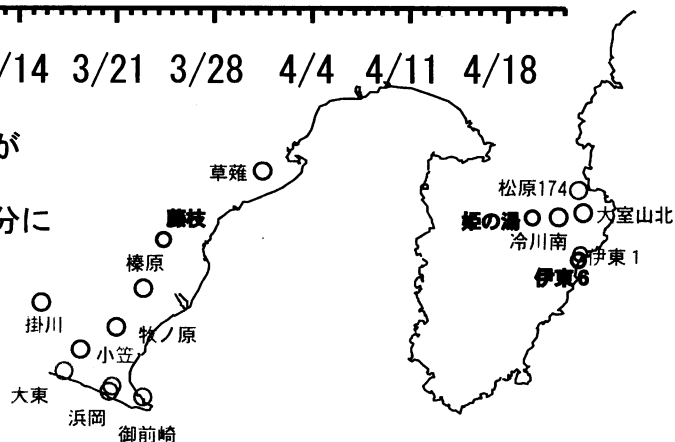


伊豆・東海地域 (伊東6, 姫の湯, 藤枝) ラドン濃度

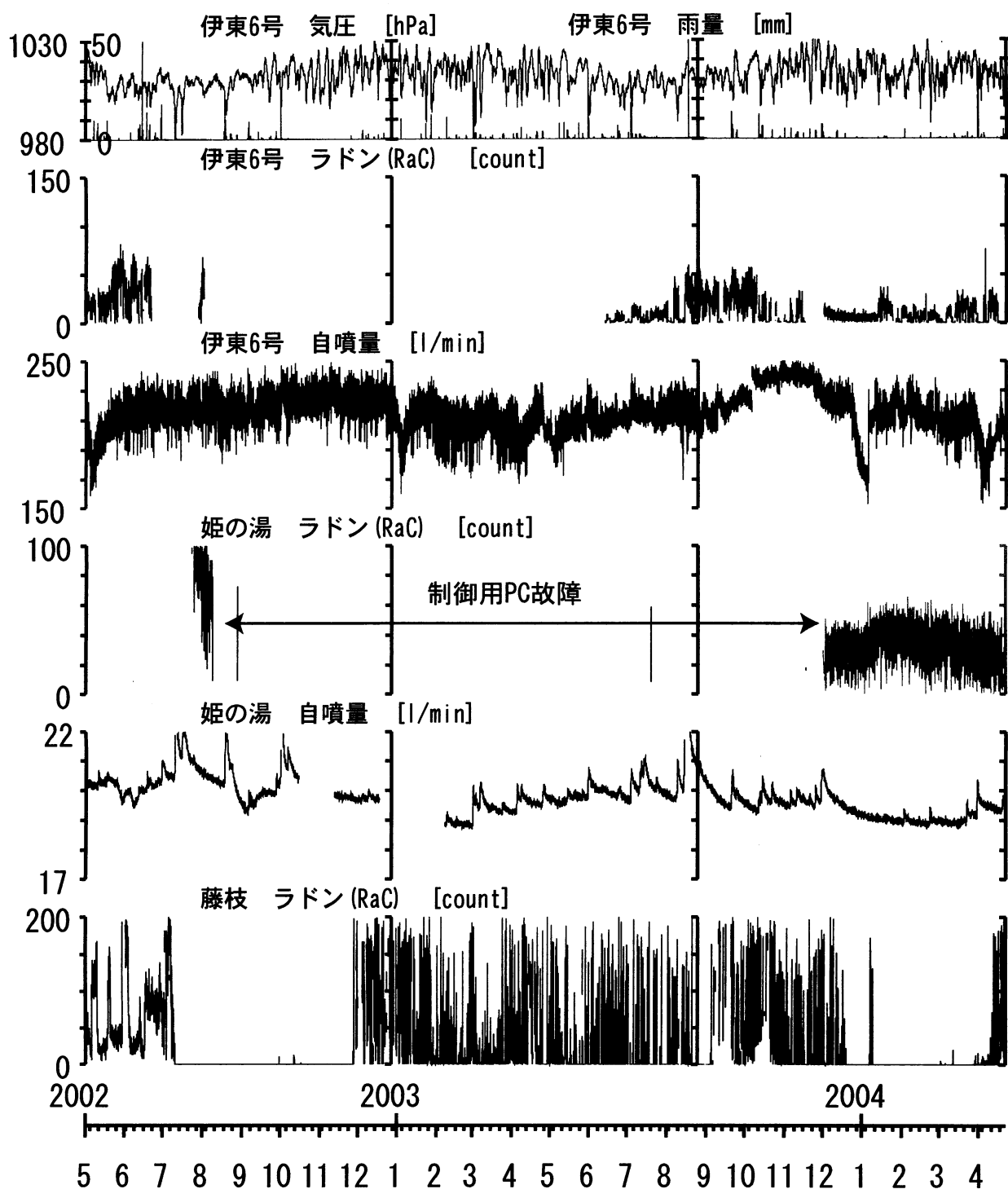
(2004/02/01 00:00 - 2004/04/22 00:00)



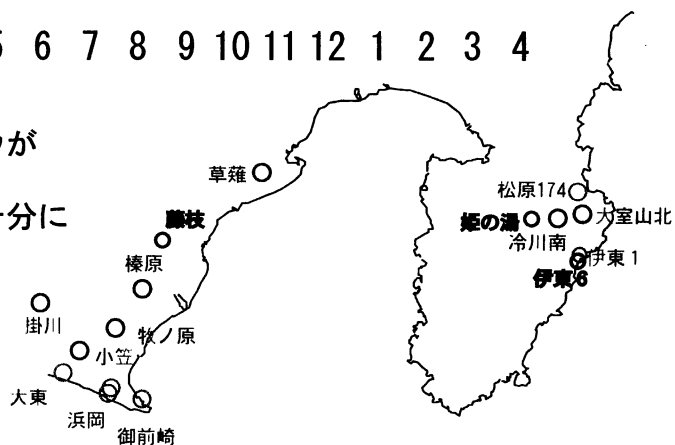
コメント：サンプル分取用配管の設置のノウハウが不足している。
伊東藤枝は、分取用配管に試料水が十分に流れていない可能性がある
藤枝は主成分であるメタンによって値が低くなる



伊豆・東海地域 (伊東6, 姫の湯, 藤枝) ラドン濃度 (2002/05/01 00:00 - 2004/04/22 00:00)



コメント： サンプル分取用配管の設置のノウハウが不足している。
伊東藤枝は、分取用配管に試料水が十分に流れていない可能性がある
藤枝は主成分であるメタンによって値が低くなる



2004年4月24日からの伊豆半島東方沖群発地震に伴う伊豆半島東部における地下水変化

産業技術総合研究所地質調査総合センター

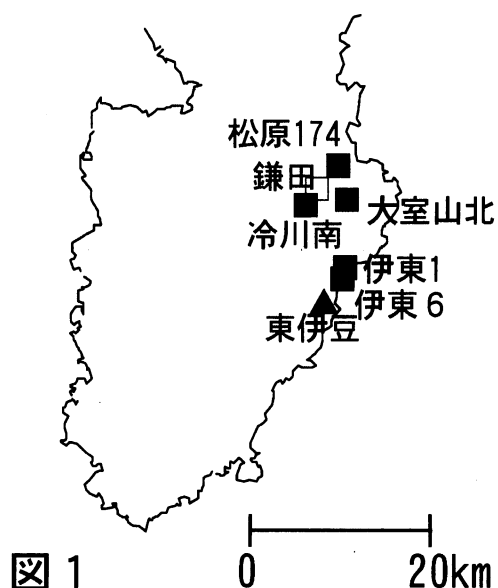
2004年4月24日から、再び、伊豆半島東方沖で群発地震が発生した。群発地震に伴う伊豆半島東部における産総研・静岡県地下水観測網における結果について報告する。

図1に観測点の分布を示す。鎌田は気象庁地震観測点、東伊豆は気象庁体積歪観測点である。その他は地下水観測点で、松原174が静岡県の観測点、それ以外は産総研の観測点である。

図2に2004年4月1日～4月25日までの観測値（時間値）を示す。グラフが2つある場合は、上側が生データを示し、下側がMR-ARやBAYTAPによる補正值である。BAYTAPでは気圧や潮汐の影響を除去している。さらに、MR-ARでは（ここでは大室山北のみ）、降雨後の数日以内の影響についてもほぼ除去している。大室山北は、まとまった降雨があると数日以内の水位の増減があった後、より長期の水位上昇を示すという一般的な降雨パターンがあり、4月1日からの水位の変化はその典型的なパターンである今回の群発地震は、比較的水位が安定している時期に発生した。

図3に4月15日0時～4月25日21時の結果を示す。大室山北は24日の午前6時頃から水位が低下し始めている。これは明らかに通常の変化とは異なる。15日午前6時から、25日21時までの水位低下量は約16cmで、この井戸の体積歪感度は、約 $0.3\text{ cm}/10^{-8}$ であるから、単純に換算すると 0.53×10^{-6} の伸びにこの水位低下は相当する。

大室山北は、1994年10月の観測開始以来、群発地震前に4度水位の低下を今回同様検出しており、群発地震の原因であるダイクの貫入による地殻変動（体積歪増加）を、ダイクが群発地震を引き起こす前に検出していると考えたと説明できる。ダイクの位置が過去と同様であれば、ダイクの上昇とともに地震活動は活発化し、大室山北は体積歪伸張から圧縮の領域にかわり、水位の上昇に転じるが、東伊豆の体積歪は縮み続ける。一方、ダイクの上昇とそれによる地殻の開口が止まれば、地震活動は低下し、東伊豆の体積歪の減少と大室山北の水位低下も止まることが予想される。



(2004/04/01 00:00 - 2004/04/25 21:00)

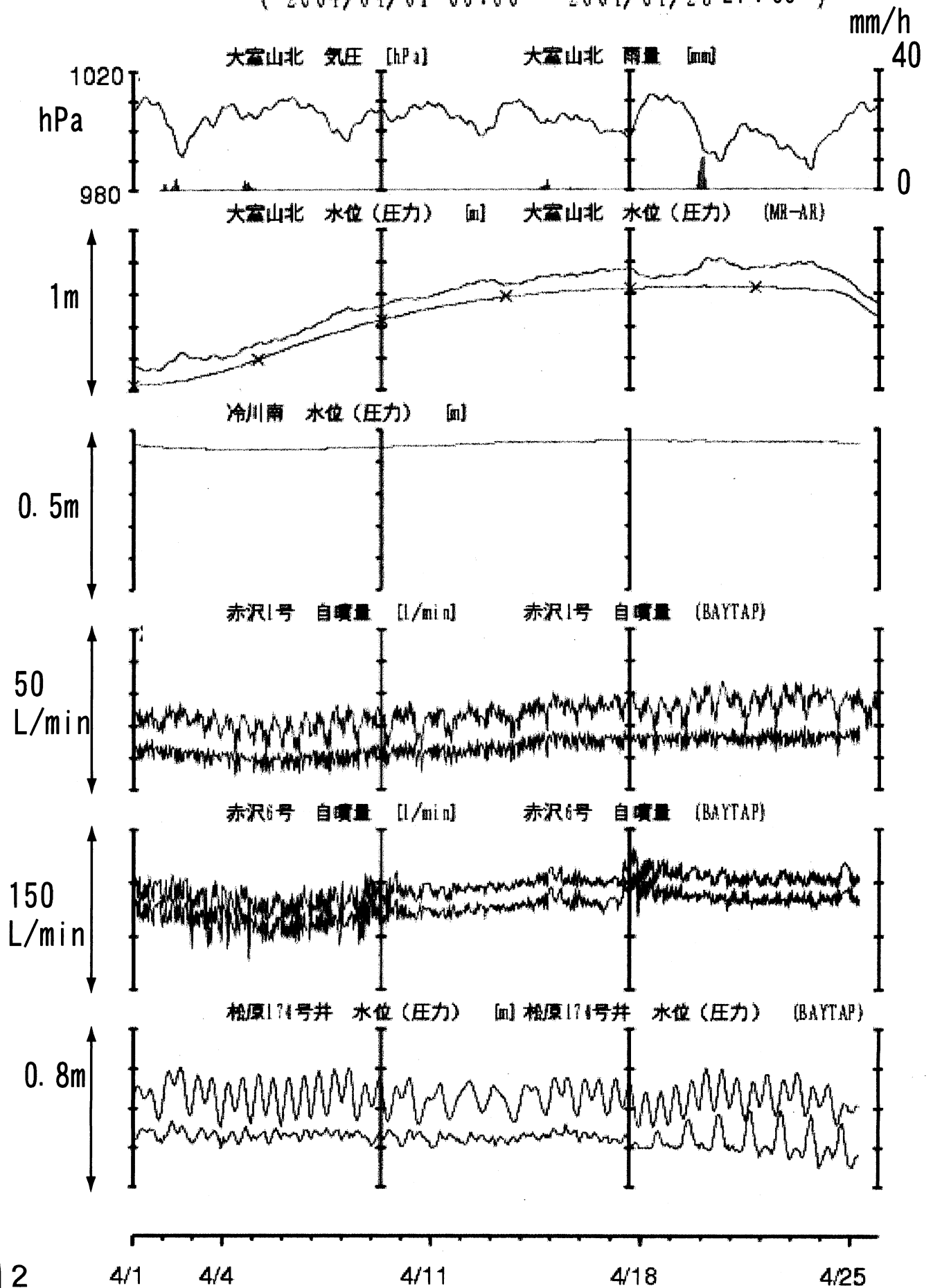


図 2

2004

大室山北・冷川南（時間値）

（ 2004/04/15 00:00 - 2004/04/25 21:00 ）

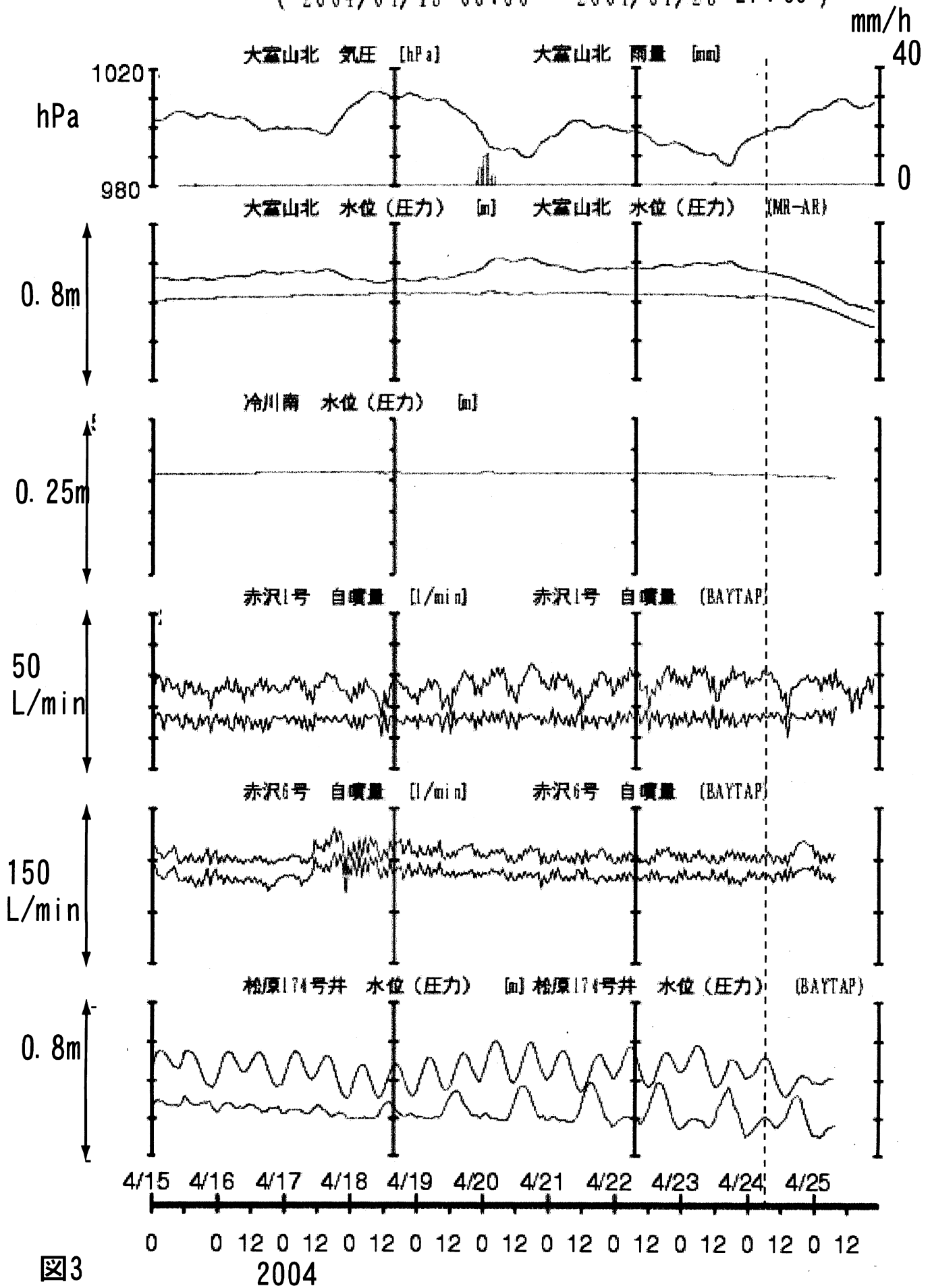


図3

〈ウラン系列〉

